

国際農業工学 第三回レポート

近年、国際援助・国際開発といったプロジェクトは社会情勢やそもそも何を良しとしてそれを行うのかといった問題から複雑化している傾向がある。そうした現状において、色々な組織によって画策される国際的な開発プロジェクトを多面的に俯瞰しその状況に合わせた最適案を提案するという役割を果たすのが国際開発コンサルタントだ。つまり専門的な知識を持った上で現場に赴きその場所場所に合わせた策を提案する役割をもつ。食糧問題などをふまえた農業開発などが以前は主であったが、現在は失業問題などより経済的な部分を含んだ先進国のそれに近い問題が起きるようになっており対応する側にもより高度な専門知識や長期的な開発・対応などが求められるようになっていて、今後ますますその需要は高まるものと考えられる。

八田與一とは戦前日本の統治下にあった台湾にてダム建設に尽力したことによく知られる人物である。この鳥山頭ダムはコンクリートをほとんど使用しないセミ・ハイドロリックフィル法という方法を採用して作られており、完成後 85 年程経った現在でもほとんど土砂が溜まること無く機能している。これにより 15 万ヘクタールの農業用地を新たに使えるようにし、かねてから問題であった塩害による被害も防げるようになった。当時の台湾の年間の国家予算の 3 分の 1 を投入しての大プロジェクトであり、当時としては世界最大のダムであった。

ちなみにダム建設においてこの八田は作業員の生活もきちんと考えて、淡泊な作業場ではなく娯楽施設などもそなえた一つの街のようなものを作ったことでも評価された。これにより作業員以外の雇用も増えたことが当然予想されるため、当時の台湾の経済発展にも一役買ったものと思われる。建設開始から 10 年後ついに完成した鳥山頭ダムによって嘉南平野全体は穀倉地帯となり収穫量は格段に向上した。

我々は農業開発に関わる際、その規模や実現可能性は勿論ではあるが、何がその地域の人々の幸福となるのか、という点を非常に広い視野で見る必要があると考える（物理的にも、社会構造的にも）。また、途方もない案も実現させてしまうような熱意も時には必要だ。そうした可能性を探る意味でも非常に広い視

野を持っていることが不利となることは決してないと考えられる。